

イベントと地域振興

～明石 翔氏講演会～

明石 翔 ■あかし・しょう
イベントプロデューサー・
SPプランナー

「奈良シルクロード博」、「世界デザイン博」ほか多数のイベントの企画に携わり活躍中。



ネットワークづくりが課題

～大風合戦と地域振興PART II 報告会～

3月9日、サルナート吉運堂で白根商工会の「大風合戦と地域振興PART II」報告会とイベントプロデューサーの明石翔氏による講演会「イベントと地域振興」が開かれました。これは白根商工会が「大風合戦をテーマにまちおこしをしていこう」と研究会を組織して、昨年度から行っているもの。報告会には約50人が参加、研究会がまとめたまちおこしに関する提言に耳を傾けました。

白根商工会では、平成五年度に市と県商工会連合会の委託を受けて大風合戦と地域振興に関する調査研究事業を実施。五年度の報告では、大風合戦をテーマに地域振興に関するさまざまな提言がなされました。六年度のPART IIでは、この提言をもとに、地域活性化のため取り組むべき課題と行動計画が示されました。

大風合戦の課題

① 白根大風合戦

現在の大風合戦は旧白根町の祭り、他の地区の人たちが参加しにくい状況にあります。また、風の揚げ手も年々減少。後継者不足の問題もあります。こうした問題を解決するために、白根町以外の人たちにも風合戦に参加してもらえるシステムを作る必要があります。例えば、人手不足のため風を揚げられない町内の風の揚げ手を募集し、企業やサークルが揚げられるようにするなど。そのほか、小・中学校生への風作り・風揚げを指導、後継者の育成に努めるなど風合戦を市民が誇れる一大イベントと位置づけて発展させていく必要があります。

② 大風合戦お祭り広場

風合戦が天候や風向きに左右されるため、風が揚がらないときでも、風合戦に来た人たちに楽しんでもらおうと昭和六十年から始められた大風合戦お祭り広場。

この広場も風合戦会場と同様に、トイレや休憩所、臨時飲食店などの受け入れ体制の整備が必要です。また、毎年行われているイベントも開始以来十年が経過。マンネリ化の傾向にあります。さまざまな団体への参加の呼び掛けやイベントを盛り上げるための統一テーマの設定などによって、活性化を図っていく必要があります。

③ しろね大風と歴史の館

昨年六月に、しろね大風と歴史の館がオープン。館の完成によって、白根の風を風合戦の五日間だけでなく、通年でPRできる拠点になりました。この館を白根の通年観光の拠点とするためには、次のような課題があります。

- 風合戦期間中の合戦会場とのアクセスとして、一の町・下江線の道路計画の推進
- 観光客のためのトイレの整備
- 土産店の充実
- 館の接客向上

これらの整備を行い、観光客が「繰り返し来たい」と思うような環境づくりが必要で、また、観光の拠点としてだけでなく、地域の文化活動・交流など

の場として、館を活用していくことが望まれます。そのためには、館で農産物の即売や風オーケションなどさまざまな催しを行ったり、家族でゆっくり楽しめるような環境整備を検討していかねければなりません。

観光と組織づくり

白根市には、平成二年度に設立された白根市観光協会があります。同協会は市内の主だった観光に係る団体や組織が参加し、観光行事やイベントの実施、観光客の誘致などの事業を行っています。この組織の機能をさらに強化していくために、風合戦や物産にかかわるさまざまなサークルやボランティアが協会へ参加することが求められます。これらの団体が参加することでネットワーク体制が確立。ネットワークには、さまざまな団体の持つノウハウや情報が集積し、交流によって、組織が効果的に機能。このことで、風合戦と物産を合わせた催しなど複合的な事業展開が期待されます。

白根市は、豊かな自然と大風合戦をはじめとする催し、農産物や伝統工芸品など多くの観光資源に恵まれています。この白根の良さを県内外に広く知ってもらうことはもちろん、市民が白根の良さを理解することが必要です。住んでいるまちを愛し、よりよいまちにしていくこと——まちづくりが観光の始まりです。

イベントは手段 目的は触れ合い

ここ二十年ほどの間に、各地で盛んにイベントが行われるようになりました。マスコミュニケーションは、情報の送り手からの一方通行だけなのに対して、イベントは双方向のコミュニケーションができるからです。イベントの目的は、触れ合うこと。イベントはそのための手段。ですから、「何か面白いことをしよう」とイベントをするのは間違いです。

一般に、あまりにも大きな祭りを伝統行事として抱えていると、祭り自体が目的になってしまい、目的を見失ってしまうことがあります。目的があいまいなイベントは最初から失敗ですから、その点を認識しておく必要があります。また、イベントは、人が集まらなければ目的であるコミュニケーションができません。では、人が集まるには、何が必要なのでしょうか。人が大勢集まってくる場所には「いつまでもそこにいたい」、「もう一回行きたい」など時間を忘れさせる何かがあります。そこへ行けば新しい情報があって、居心地の良い空間がある。つまり「時間」と「空間」と「情報」の三つの要素があるところに人が大勢集まります。

白根の場合を考えてみましょう。ここには、手段として大風合戦と

身近なところから まちおこしを

イベントがあり、その目的は五日だけです。その五日間は白根にとつて、いつもと違う日（非日常）です。しかし、その五日間があまりにも強烈過ぎるために日常が薄れてしまいます。人間はマンネリ化する日常から抜け出すため、刺激を求めます。ですから、日常の中で、身近なところから市全体が活性化するための方策を真剣に考える必要があります。

例えば、しろね大風と歴史の館のまわりの植栽が四季折々に計算されていけば、それぞれの季節に人が花を眺めに来たりするでしょう。もう一度身近なところから人が集うことのできる場所を見直してはどうでしょうか。そういった取り組みは、全国各地で盛んに行われています。

幸い、白根は風という題材がありますから、それを触れ合うため

ネットワークづくりが効果を発揮

また、違う意見を持っている人たちが集まって、お互いにものを補い合ったり、ほかの地域で同じような活動をしている人とのネットワークづくりが、まちおこしのために非常に効果的です。最後に、参加者全員がイベントの目的を徹底的に理解すること、こだわることで、そしてメンバーが自分たちの住んでいるまちを良くしようと熱くなっていることがイベント成功の秘訣です。楽しんで面白くなってください。

